

ぐるりしよーばら カメラレポート

高齢者を元気づける花のプレゼント 高地区の住民と児童がペゴニアを植栽



高地区明るい地域づくり推進協議会が5月22日、地域の一人暮らし高齢者や公共施設などへ花を贈る活動を行いました。

これは、花いっぱい運動の一環で、一人暮らしの高齢者を元気づけようと、平成8年から始まりました。

高公民館に集まった協議会の会員20人と高小学校と高南小学校

の1・2年生22人が一緒に、ペゴニアをプランターに植えました。

赤・白・ピンクと彩りよく植えられた100鉢のプランターは、会員が軽トラックで1世帯に2鉢ずつ配布。「元気で夏を乗り切ってください」と届けると、高齢者は「いつもありがとうございます」と喜ばれました。



4年に1度の華やかな田植え

塩原の大山供養田植

5月28日、東城町塩原地区で4年に1度行われる塩原の大山供養田植(国重要無形民俗文化財)が開催され、県内外から1,000人を超える見学者が訪れました。

この日はきれいに飾りつけられた和牛23頭が農具を使わず「波乃形」という古式の歩き方で代をかき、「左下」と呼ばれる男衆35人の打ち鳴らす太鼓と田植歌にあわせ、早乙女56人が苗を植えました。

この行事は江戸時代中期頃から地区の大仙神社に、牛馬の安全と五穀豊穡を祈願するために始まったと云われ、田植おどりから始まり、神仏両方からの祈祷を受ける棚くぐり・代かき・太鼓田植・お札納めの5つの行事が行われました。(今回は宝くじの助成金を受けて開催しました。)



合併後はじめての「庄原文芸」 新たに結成した庄原市文化協会が発行



庄原市文化協会が合併後初めてとなる「庄原文芸」34号を発刊しました。

庄原文芸は、これまで旧庄原市の文化協会が年に1回発行し、文芸サロンとして長い間

市民の皆さんに親しまれてきましたが、合併により33号で終刊になっていました。

この度、新たに結成した庄原市文化協会が、「文芸活動の発表の場として、これからも継続発行しよう」と取り組み、163人から177作品が寄せられました。

この34号は、A5版160ページにまとめ、800部を印刷。文化協会で購入(1部600円)できるほか、市内各図書館においてあります。

(問い合わせ:文化協会「庄原文芸」係 ☎0824-72-3286)

森林浴が楽しめるスポットに 指谷山(大万木山)の溪畔林整備とクリーン作戦

森林の重要性と林業の果たす役割を広くアピールしようと、「指谷山(大万木山)国有林の溪畔林整備と木地山川クリーン作戦」が5月19日、高野町上里原で行われました。

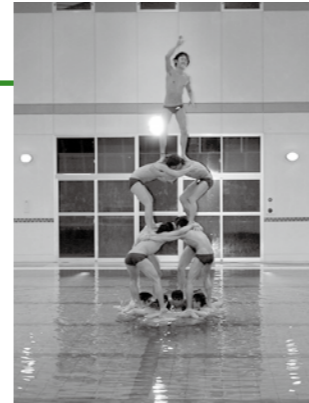
3年前から地元建設会社が、気軽に森林浴が楽しめるスポットにしようと、ボランティアで大万木林道と木地山川周辺の整備を始め、今回広島北部森林管理署が、関係する公共団体や地元自治振興区へ「みんなで一緒に取り組もう」と呼びかけました。

この呼びかけに、12団体から約100人が参加。林道周辺の清掃活動や枝払いなどの森林整備を約1ヘクタール行いました。また、午後からは台風の倒木被害地へケヤキやカエデなどを植樹しました。



水中アクロバットやコミカルな演技

トゥリトネスWB水中パフォーマンスショー



西城温水プール水夢で6月10日、トゥリトネスウォーターボーイズ水中パフォーマンスショーが開催されました。トゥリトネスウォーターボーイズは、男性のシンクロナイズドスイミングを題材にした映画・テレビ「ウォーターボーイズ」の出演者によって結成された、日本で唯一の水中パフォーマンス集団です。

全国のプールで公演を行い、華麗な演技で観客を魅了していますが、県北地域での公演は初めてのこと。当日会場には、庄原市内はもちろん遠くは関東地方から250人の来場者があり、競泳、シンクロナイズドスイミング、水中アクロバットなど「水の道化師」のコミカルで力強い演技に大きな拍手が送られました。この催しは、水が苦手な人にもプールを身近な存在として感じてもらいたいと企画し、参加者からは「水は怖くない。水泳は楽しいと思った」「明日からプールに行きたい」などの感想が聞かれました。



愛鳥週間のポスター・標語で特選が3人 小・中学校で愛鳥活動の成果

野生鳥類の保護思想を高めようと県と県教育委員会が募集した愛鳥週間のポスター・標語の部で、特選4人のうち3人が庄原市から選ばれました。(以下カッコ内の学校と学年は応募当時)

ポスターの部に401点の応募があり、特選に横山紋子さん(帝釈小6年生)、吉浪優香さん(西城中3年)が選ばれました。また、標語の部に175点が寄せられ、特選に渡部智之くん(小鳥原小6年生)が選ばれました。

餌かけ作業や早朝探鳥会などの愛鳥活動に取り組んでいる帝釈小学校では、5月17日に卒業生の横山さんの表彰式を行い、全校児童で特選を祝いました。



帝釈小学校での表彰式

子どもたちがアユの稚魚を放流 水後小と口北小が西城川で自然学習



水後小学校19人と口北小学校1・2年生10人が5月29日、口和"高瀬の湯"裏の西城川で、アユの稚魚35,000匹を放流しました。

西城川漁業協同組合の協力で、遠く和歌山から運んできたばかりの10センチ程度の稚魚をバケツに入れてもらって、飛び跳ねる稚魚を見て子どもたちは大喜び。「大きく育てほしい」と願いを込めて川に放しました。

その後、川のしくみや自然学習・魚の生き方などを学習しました。

都市と農村を結ぶネットワーク

グリーンツーリズムイン東城が田植え交流会

生産者と消費者の顔がお互いに見える関係を作り、安全で安心な米を食べてもらおうと、グリーンツーリズムイン東城が5月28日、東城町粟田で田植え交流会を開催しました。

今年で19回目となるこの交流会に、広島市や大阪市の消費者250人が参加。最高齢90歳の今岡荘さんらによる田植え太鼓と囃子にあわせ、つな田植えを行い、田んぼにアイガモの雛を放しました。

また、農作業に汗を流した後、地元の山菜を使った煮しめやおすび・比婆牛の丸焼きなどを楽しみました。

グリーンツーリズムイン東城では、この交流会をはじめアイガモ農法やマイナスイオン水栽培など「安心・安全・命」の米作りをめざしています。このような活動が認められ、今年2月、代表の藤本勲さんが日本農業賞を受賞しました。



健康や福祉をテーマにイベントいっぱい 2006健康福祉まつり



5月28日、健康福祉まつりが「誰もが健康でしあわせを感じ安心して暮らせるまちづくり」をテーマに庄原市保健センター、庄原市総合体育館をメイン会場に開催されました。当日は、約3,000人の来場者があり、健康チェック、福祉用具の展示、健康相談など健康や福祉に関わる催しや、健康マラソンやテニス大会などのスポーツイベントを楽しみました。

各会場では子どもから高齢者まで幅広い年齢層が参加し、健康増進とともに世代間交流が図られた一日でした。

◀骨密度検査



地域に開かれた学校をめざす 粟田小ハートフル交流会



交流会でゲームを楽しむ

地域の方を学校に招いて、学校に対する理解を深めてもらおうと、粟田小学校が5月18日、「ハートフル交流会」を行いました。

児童の家族や地域住民約40人が参加し、授業参観と交流会で児童とふれあいました。

授業参観では、大人も児童と一緒に授業に参加し、英会話や押し花絵の創作を楽しみました。また、交流会では、児童が頑張っていることなどを自己紹介し、歌やゲームで笑顔が広がりました。

参加した地域の皆さんは「子どもたちの生き生きした姿にパワーをいただいた」「英語の授業が楽しかった」などと話していました。

交流会の最後には、地元園芸業者が提供したサルビアなどの花の苗を参加者全員で植え、子どもたちは「きれいな花が咲いたらまた見に来てください」と呼びかけました。

野草を知ろう！そして食べよう！

西城公民館 子ども自然体験学習ツアー

6月10日、西城町三坂地区で、「西城再発見！楽習ツアー」が行われました。

西城公民館が主催するこの催しは、子どもたちが西城町内のいろいろな地域を訪ね、地域の方との交流の中で自然体験を行い、ふるさとの自然や歴史を楽しく学ぼうというもの。

この日は、食卓に彩りを添える山菜など身近な野草の観察をテーマに、2歳から小学3年生までの児童と保護者が三坂地区を訪れ、三坂の歴史を聞いたり、野草を観察したりしました。また、地元農家のお母さんたちが経営する食堂「峠の茶屋やまびこ」で、ほうこう餅の餅つきや山菜料理、「ダンボのお話会」による絵本の読み聞かせ会を楽しみ、すずらんを見ながらクロカンパークを散策しました。



ほうこう餅の餅つき

西城公民館では今年度あと3回の自然体験ツアーを予定し、次回は8月初旬にとうもろこしのもぎとり体験を計画しています。興味のある方は西城公民館までお問い合わせください。(☎0824-82-2175)



起こり得る事故への心構えを 危険物流出火災想定訓練

危険物安全週間を間近に控えた6月2日、西城町中野地区の駐車場で「危険物流出火災想定訓練」が行われました。

ガソリンスタンド前で起きた交通事故が原因で、ガソリンスタンドから重油やガソリンなどが流出し、これに引火して火災が発生するという事態を想定。事故車の処理と人命救助、危険物流出防止、消火活動などを同時に行う複合

的な訓練となりました。この訓練は、多重事故や災害時に、連絡や役割分担など、関係者全員が迅速な対応ができるよう、庄原消防署西城出張所が呼びかけ、西城支所、西城町内の民間事業所が協力して、実施されたもので、西城地域では初めての試みとなりました。

訓練に参加された伊藤郁夫さんは、「訓練のための訓練ではなく、他人事ではないということを実感した。あってはならないことだが、事故が起こる可能性は存在している。事故や災害に遭遇したとき、被害を最小限に食い止めるため、職場も地域もいっしょになって行動できるよう心構えを持って生活したい」と感想を話されました。

市内で一番早い運動会 総領小学校が春の大運動会

第25回総領小学校の大運動会が、5月21日に行われました。

1年生から6年生まで83人の児童が、徒競走や親子競技、団体競技「台風の目」など22種目を行い、多くの家族や地域の方から暖かい声援を受けながら、さわやかな汗を流しました。

今年度、農繁期や地域行事との関係で、市内の小学校の約半分が春から初夏に開催。5月21日に開催した総領小学校と峰田小学校が、市内で一番早い運動会となりました。



組体操を行う5・6年生の児童

訓練を重ねて防災意識の高揚を

高野少年消防クラブ・高野婦人防火クラブ合同訓練

6月11日、上高公民館で、高野少年消防クラブと高野婦人防火クラブの合同訓練が行われました。

この訓練は、庄原消防署高野出張所の協力で、高野小学校5・6年生有志からなる少年消防クラブ員と、町内各地域からの女性代表による防火クラブ員が、消防・防災や救急救命などの知識を習得しようと、毎年開催されています。

今回は、地元高野町の社団法人日本損害保険協会認定「新奥さま防災博士」山本イツエさんが、火災予防のための「声かけ運動」などの必要性について講演。その他、AED（自動体外式除細動器）を用いた応急手当や、消防クイズラリーとして、消防に関するクイズ形式の体験コーナーなど、終始熱心な訓練が行われました。参加した少年消防クラブ員からは、「消防クイズラリーで次回は優勝したい。もっと消防についていろんな事を知りたい」などの感想が聞かれました。



比和の初夏を彩る40匹の鯉のぼり 吾妻山の観光客を歓迎

5月下旬から6月上旬にかけて、比和町^{なごうら}永原地域の国道432号沿いに鯉のぼりが泳ぎました。

この取り組みは、永原地域の皆さんが、毎年6月第1日曜日に開催される吾妻山の山開きに合わせて、観光客を歓迎しようと取り組まれ、今年で20年目を迎えました。

地元では、初夏の風物詩となり、「永原で鯉のぼりがあがったけえ、山開きの時期じゃねえ」が言葉葉になっています。

地元住民の皆さんの力を合わせた取り組みに心意気を感じているのか、初夏の風を受けて、鯉のぼりたちは元気よく泳いでいました。



2,000人が登山やバザーを楽しむ 夏の訪れを告げる吾妻山山開き

好天に恵まれた吾妻山で6月4日、「第36回吾妻山山開き」が開催されました。吾妻山池の原では夏山登山の安全祈願の神事が行われ、シーズン中の無事故を祈願しました。

比婆牛モモ肉の丸焼きなどのバザーコーナーが立ち並び会場では、市内外から約2,000人の登山客や観光客でにぎわい、子どもから高齢者まで幅広い年代が登山やハイキングなどを満喫しました。吾妻山では、四季折々の高山植物や山野草が咲き乱れ、晴天時には山頂(1,239m)から、日本海や大山も望めます。



まちの匠・まちの基地

五町自治振興区「匠展」

6月19日から25日にかけての一週間、西城町商工会館で、西城町の五町自治振興区による第1回「匠展」が開催されました。五町自治振興区は、本町・中町・十日市・横町・明神町の5つの行政区で構成され、多くの住民が、絵画や写真、短歌などの創作活動を続けています。開催期間中、商工会館2階には、60点あまりの作品が展示され、多くの来場者が訪れました。

この「匠展」は自治振興区内の創作活動をしている人の作品を一同に集めて紹介し、これを地域資源として掘り起こしていこうと開催されました。会長の堂本時和さんは、「五町自治振興区が位置する西城町商店街の一角は、買う人と売る人のお茶を介した交流の歴史を生かし、『茶のみんさい通り』と名づけられた。今後商工会館1階の交流館『茶のみんさい』を自治振興の様々な活動基地として充実させていきたい」と話されました。

